



# GPS ロガーによって得られたワカケホンセイインコ

## (*Psittacula krameri manillensis*) の繁殖期における行動範囲の一例

○松永聡美 藤井 幹 (公益財団法人 日本鳥類保護連盟)

### 目的

ワカケホンセイインコ (*Psittacula krameri manillensis*) は 1960 年代後半に日本で分布を広げた外来種で、現在東京都を中心として神奈川県、埼玉県に広く分布する 1,500 羽を超える大きなグループと、群馬県に 50 羽程度、千葉県に 20 羽程度の個体群が確認されている。ワカケホンセイインコは原産地や他の移入国では稲やトモロコシなどの農作物への被害が確認されており、日本においても今後深刻な農業被害を引き起こす可能性があるため、今後の効果的な対策のためには本種の行動生態について明らかにすることが不可欠である。そこで今回の調査ではワカケホンセイインコの個体の繁殖地・採餌場所・ねぐらまでのそれぞれの距離と環境について明らかにすることを目的として GPS を用いた調査を実施した。

### 調査方法

渋谷区内にある民家の観台に飛来する個体をボウネットを用い 2019 年 5 月 29 日に捕獲し GPS タグ (PinpointVHF) をオスの個体に 1 個装着した。また GPS データを捕うために、ラジオタグの Pip392 をメス個体に 1 個、Pip393 をオス個体に 1 個装着した。これらのタグは 8iotrack 製を用いた。ワカケホンセイインコは噛む力が強く、背中や尾羽に装着すると噛みちぎられて脱落する恐れがあるため GPS、発信機共に柔らかいポリ塩化ビニルのチューブにナイロン製 2.5 mm 幅のケーブルタイを通して構成した物を用いて首に装着した。装着器具を含めると GPS タグは 5.2g、ラジオタグの Pip392 は 2.2g、Pip393 は 2.8g で、全てにおいて装着個体の体重の 4% 以下を満たしていた。

一度捕獲された個体は警戒心が増し、同じ場所・同じ日での再捕獲が難しかったため、GPS タグはタグを回収することなくデータを取得することが可能な VHF が搭載された物を使用した。12 時～13 時と 18 時～20 時の間に電波が発信されるよう設定し、その間にデータを取得することができるようにした。位置情報は 0:00、5:00、9:00、12:00、15:00、18:00 に測定するように設定し 2019 年 5 月 30 日の 9:00 から 2019 年 6 月 5 日の 12:00 までのデータを取得した。また利用している環境を観察するために、装着して 4 日後の 2019 年 6 月 2 日にも世田谷区のねぐらにおいてデータを取得し、そのデータを差に現地視察を行った。

ラジオタグはどちらも 2 秒に 1 回の発信で Pip392 は約 4.4 か月、Pip393 は約 8.4 か月バッテリーの持続が期待できるよう設定し、GPS 装着個体の現地視察の際に発信を取るよう努めた。また定期的になぐらにおいても発信がでているか確認を行った。



GPS タグ (PinpointVHF)



ラジオタグ (Pip392)

### 結果

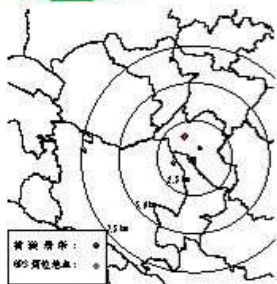
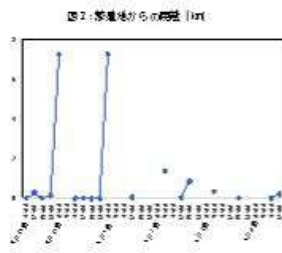


図 1: GPS を装着した個体

2019 年 6 月 2 日に既知の世田谷区のねぐらにて取得した GPS データを差に各ポイントを視察したところ営巣地と餌場 4 箇所の発見に至った。GPS の即位地点の取得率は 56.3% であった。



図 2: 採餌場を記録した個体



### 営巣地

GPS が密集して測定していた場所にて GPS 装着個体の営巣を確認することができた。

その後営巣地とその付近で観察をしたところ、つがいのメスは確認できず、オスのみで営巣しているようだった。



営巣環境は渋谷区の住宅街の中にある公園で、ケヤキの樹洞を利用していた。



GPS を装着したオス個体とそのヒナ、GPS を装着したオスのヒナ、別のペアが巣穴を詰めることが確認された。

### 餌場

#### 餌場①

営巣地からの距離: 98m  
採餌場所: 営巣地の公園内  
採餌内容: 木になっているピロ



#### 餌場②

営巣地からの距離: 220m  
採餌場所: 住宅街  
採餌内容: 民家の観台



営巣地から餌場の距離は、捕獲場所が一番遠く 1.45km、一番近い場所は営巣地となっている公園内のピロで 38m、平均距離 0.78km であった。また採餌内容は捕獲場所を含む 3 箇所が民家を出している観台のエサで、2 箇所は木になっている果物を採餌していた。

#### 餌場③

営巣地からの距離: 866m  
採餌場所: 代々木公園付近の緑地  
採餌内容: 木になっている枳殻



#### 餌場④

営巣地からの距離: 1.43km  
採餌場所: 住宅街  
採餌内容: 民家の観台



ラジオタグ Pip392 を装着したメスの個体は、GPS 装着個体と同じ営巣地と、そこから 225m 離れた観台、そしてねぐらにて発信を取ることができた。ラジオタグ Pip393 を装着したオスの個体はねぐらでしか発信が取れなかった。オス、メス共に繁殖状況は不明。世田谷のねぐらが 2019 年 7 月に 8.2km 移動した際はメスの発信は取れたものの、オスの発信は取ることができなかった。

### ねぐら

2019 年 6 月 2 日に既知の世田谷区のねぐらにて GPS のデータを取得することができた。ねぐらと営巣地との距離 7.29km で、観測を行った 6 日間のうち 3 日間はそのねぐらにいたことが確認されたが、他 3 日間はデータが取得できておらず不明であった。



住宅街の中にある 700 ml 程度の竹藪を利用。多くのワカケホンセイインコが就寝前には竹の葉を食べたり、巣立ち雛に給餌している様子が観察された。

### 今後の課題

今回の研究で使用した GPS は 1 日に 6 点測定し、22.5 日程度観測ができる設定にしていたが、装着に使用していたケーブルタイが噛み切られ脱落した為、6 日間のみのデータとなった。同じように装着したメス個体の発信機は装着後 2 か月を経過しても発信が取れているが、GPS は発信機よりも重量があるため、たるみができケーブルタイの間に噛み入り噛み切られたと考えられる。今後は噛み切られないような素材や装着方法について検討する必要がある。また今回の研究では GPS のデータは 1 例のみなので、繁殖期の行動を把握するために引き続き GPS による調査を行う必要がある。

本研究では捕獲において竹中隆二氏、竹中ますみ氏にご協力頂いた。ここに感謝の意を表する。

### ●発信機

- メリット
  - ・安価で軽量。
- デメリット
  - ・高層ビルの多い都市では発信遮断され、追跡が困難。

### ●GPS

- メリット
  - ・再捕獲することなく詳細な場所を把握することができる。
- デメリット
  - ・コストが高い。

ワカケホンセイインコの目撃情報募集中心！  
【公財】日本鳥類保護連盟ではワカケホンセイインコの情報を随時募集しております。飛んでいるところを見た、こんな物を食べていた等どんな些細な情報でも構いません。もし見かけたら下記までご連絡いただければ幸いです。

〒166-0012 東京都杉並区和田 3-5-5, 3F  
公益財団法人 日本鳥類保護連盟  
調査研究室 松永 聡美  
TEL : 03-5378-5691 FAX : 03-5378-5693  
e-mail : research@jspb.org